

三・一独立運動				
出版社	頁	項目名	記述	コメント
大阪書籍	178～ 179	朝鮮と中国の 独立運動	<p>韓国併合後の朝鮮では、日本による土地調査が行われ、所有権が明確でないとして多くの農民が土地を失い、企業の活動も規制されました。</p> <p>1919年3月1日、朝鮮の独立をめざす人々が、ソウル(京城)[注①]で独立宣言文を発表し、「大韓独立万歳」をさげんでデモ行進を行いました。この動きは朝鮮全土に拡大し、200万人ともいわれる人々が参加する運動となり、日本政府は、警察や軍隊を動員して鎮圧しました。この運動は三・一独立運動とよばれ、その後の朝鮮独立運動の出発点となりました。政策の転換をせまられた日本政府は、憲兵警察制度[注②]の廃止や、朝鮮語の新聞の発行も許可することとなりました。</p> <p>[注①]1910年、日本は漢城を京城と改称しました。 [注②]本来軍隊に関する警察を受けもつ軍人(憲兵)が、一般の行政・司法警察の役割を担う警察制度です。</p>	<p>「独立宣言文」の発表者がデモ行進を行ったかのように読めるが、起草者と朗読者は別であり、説明不足のため、やや不正確。</p> <p>統治方針の変換に触れられている点は多少配慮があるが、全体的に支配の力が緩和されたようにもとれる。憲兵警察制度の廃止とともに普通警察制度への転換に触れておく必要があるのではないか。【総論】参照。</p>
	179	【コラム】柳宗悦と吉野作造から見た日本の朝鮮支配	<p>朝鮮の美術を高く評価していた柳宗悦は、日本の朝鮮政策を批判しました。柳は、『朝鮮の友に贈る書』などのなかで、「日本にとっての兄弟である朝鮮は、日本の奴隷であってはならぬ。それは朝鮮の不名誉であるよりも、日本にとってはずかしいことである。」「自由と独立をうばい、日本の思想をおしつけようとするが、心までうばいとることはできない。」「独立が朝鮮の人々の理想になるのは、必然な結果であろう。」と述べています。</p> <p>また、日本国内の民主化を主張した吉野作造は、三・一独立運動に理解を示し、「どの民族にあっても、祖国の回復をはかることは最高の道徳である。」と述べました。</p>	【総論】参照。
教育出版	152	三・一独立運動	<p>日本の植民地とされていた朝鮮では、1919(大正8)年3月1日、京城(今のソウル)などで、朝鮮の独立が宣言され、街頭で「独立万歳」をさげぶ行動がおこり、朝鮮全土に広がりました(三・一独立運動)。この運動は、平和的に非暴力ですすめられましたが、日本は軍隊や警察の力で、これを弾圧しました。これに対し、朝鮮の人々は各地で立ち上がり、独立運動は朝鮮全土、さらに満州などにも広がりました。運動は5月までさかんにおこなわれました。</p>	【総論】参照。
	152	【写真】独立運動のレリーフ(ソウル・タポル公園)	<p>1919年3月1日、ここで日本からの独立を宣言する書を読まれました。</p> <p>—この運動は、その後どうなったのだろう。</p>	
	152	【地図】朝鮮での独立運動	<p>約200万人が参加し、自由と独立を求める朝鮮民族の意思を国内外に示しました。</p>	ソウルにだけ「三・一運動」の矢印がのびているのは正確でない。

清水書院	168	日本の植民地支配	(略) 韓国に関しては、欧米の強国の支持をえうえで1905年に保護国とした。外交権をうばい、統監を置いて内政の監督もはかった。これに対し、韓国民ははげしく抵抗し、独立運動家安重根が初代統監の伊藤博文を暗殺した。その翌1910年、日本は韓国併合を強行した。 日本は朝鮮総督府をおき、台湾と似た統治をおこなったが、古い歴史を誇る朝鮮の人びとは抵抗をつけ、1919年にはもとの皇帝の死去を機に独立運動を展開して、日本のきびしい弾圧をうけた(三・一独立運動)。	「台湾と似た統治をおこなった」のに朝鮮では抵抗が続いたと読める文章は問題。 武断政治の内実についての言及がなく、一足飛びに三・一独立運動の話が出てくる。三・一独立運動の内在的・外在的契機が見えてこない。【総論】参照。
	168	【図2】三・一独立運動[地図]	朝鮮の218の郡のうち、211の郡に運動がひろまった。	
	169	【図4】三・一独立運動のレリーフ	1919年3月1日にはじまった独立運動に、この少女(柳寛順)は15歳で参加し、のちにデモを組織するなどの活動をおこなったが、とらえられ、1920年、16歳で獄死した。(ソウル市パゴダ(いまはタブコル)公園内)	
帝国書院	191	こぼまれたアジアの民族自決	ウィルソンはまた、民族自決の考え[注①]も提案しました。これにより、東ヨーロッパの諸民族は独立を認められましたが、アジアには民族自決が適用されませんでした。イギリスからの独立を望むインドでは、ガンディーの指導で自治を求める運動がおこりました。 日本の植民地になっていた朝鮮でも、1919年3月1日、京城(現在のソウル)のパゴダ公園で独立宣言が行われ、独立万歳をさけぶ民衆運動が朝鮮各地に広がりました(三・一独立運動)。中国では日本の二十一か条の要求の取り消しなどを求めて、1919年5月4日に北京で大抗議集会が開かれ、運動は中国国内に広まりました(五・四運動)。 [注①]各民族は自分たちのことは自分たちで決める権利があるという考え方。ロシア革命(→P.187)のときレーニンもこの考え方を主張しました。	三・一独立運動の契機、経過、結果等の諸事項についての記述がなく、三・一独立運動が起きたのか明確でない。【総論】参照。
	191	柳寛順1904～20	ソウルの梨花学堂(女子校)に在学中に、柳寛順は三・一独立運動に出会いました。寛順は運動に加わり「朝鮮独立万歳」をさげんだため逮捕されてしまいました。しかし獄中でもその志を曲げずにいたため、詰問を受けて獄死してしまいました。16歳でした。 — 韓国の考え 日本からの支配から解放されて、独立したい。	
	191	民本主義と民族自決	第一次世界大戦中は、民主主義を広める動きが世界中に広がりました。これを受けて、吉野作造は、大日本帝国憲法のもとで民主主義のあり方を説く、民本主義を提唱しました。(略) また吉野は、民族自決をとうと主張をし、三・一独立運動や五・四運動を評価しました。	

東京書籍	174	朝鮮の独立運動	<p>日本の植民地支配のもとに置かれていた朝鮮では、1919年3月1日、ソウルで独立をめざす知識人や学生らが日本からの独立を宣言する文章を発表し、人々は「独立万歳」をさけんでデモ行進を行いました。これに刺激されて、独立運動は短期間に朝鮮全土に広がりました(三・一独立運動)。</p> <p>朝鮮総督府は武力でこれを鎮圧するいっぽう、これまでの武断的な支配をゆるめる姿勢を示したため[注]、朝鮮の近代化を求める動きが活発になりました。また、独立運動は、その後も続けられました。</p> <p>[注]三・一独立運動後、日本は言論、出版、集会の自由などを一部認めたり、教育制度を拡充したりするなどの政策も取り入れました。</p>	<p>三・一独立運動後の状況について、注で文化政治期の動向に触れたのは興味深い。 【総論】参照。 「朝鮮の近代化を求める動き」の主語が必要か。 「また、独立運動は……」の記述は、唐突な印象がある。</p>
	175	[歴史にアクセス]インターナショナルナリスト柳宗悦	<p>朝鮮で三・一独立運動が起こったとき、ほとんどの日本人は「暴動」と見ていました。しかし、独立運動に共感をもっていた日本人もいました。その一人であった、柳宗悦はこう言っています。</p> <p>「われわれ日本人が、今朝鮮人の立場にいると仮定してみたい。おそらく、義憤好きなわれわれ日本人こそ、最も多く暴動をくわだてる仲間であろう。……わがことならぬゆえに、ただそれを暴動だといってあなどるのである。……反抗するかれらよりもいっそうおろかなのは、圧迫するわれわれである。」</p> <p>柳は、当時だれもかえりみることもなかった朝鮮の白磁の美を、偏見のない目で見だし、そうしたものを生み出す人々を敬愛しました。そのことを通じて、朝鮮をおくれた国、貧しい国としか見ない日本人に、もう一つの朝鮮像をえがいてみせたのでした。</p> <p>朝鮮の美術工芸との出会いは、さらに柳の日本の民芸への関心につながりました。(略)</p> <p>柳宗悦こそ、それぞれの民族性を尊重するという国際性 — インターナショナルイズムを持っていた人物と言えるでしょう。</p>	
日本書籍新社	184	三・一独立運動	<p>大戦後、アジア・アフリカでは、ロシア革命や民族自決の主張にはげまされて、新しい民族運動がおこった。</p> <p>韓国併合ののち、日本の植民地支配に苦しんでいた朝鮮の人々も独立を求めて立ち上がった。パリで講和会議を開催中の1919年3月1日、ソウルの公園に集まった人々は、朝鮮の独立は民族の当然の権利であり、東洋の平和のためにも独立が必要であると、独立を宣言した。つづいて「独立万歳」をさけんで示威行動をおこした。これをきっかけに独立運動は朝鮮全体に広がり、以後3か月にわたってつづけられた(三・一独立運動)。運動には、のべ200万人が参加し、自由と独立を求める朝鮮民族の力を内外に示した。これに対して、日本は軍隊を派遣し、きびしい弾圧を加えた[注①]。</p> <p>[注①]:日本の弾圧による死者は、約8000人にのぼるといわれている。</p>	<p>「軍隊を派遣し」の部分は、このために「内地」から派遣されたかのような表現である。誤解を避けるためにも、すでに駐屯していた軍隊に合わせて、4月に(歩兵六個大隊を)増派したことに触れるべきか。あるいは、「憲兵・警察・軍隊を出動させた」とするべきではないか。【総論】参照。</p>
	184	【地図】	三・一独立運動の広がった地域	
	184	【写真】三・一独立運動	植民地支配からの独立を求め、ソウルの中心街を行進する女子学生たち。—独立の願いを、日本政府は認めたのだろうか。	
	184	【写真】	柳寛順(1904～1920) ソウルの梨花女子学堂に学ぶ15歳の時、独立運動に参加し、投獄されて拷問をうけ、死亡した。	

日本文教出版	159	【ベルサイユ条約】民族自決の動き	朝鮮でも、独立と民族の自由を求める動きがおこり、1919年3月1日、ソウルで独立宣言が発表された。これをきっかけに、独立を求める運動が全土に広まった(三・一独立運動)。日本は、軍隊や警察の力で運動を弾圧し、約8000人の死者と1万6000人の負傷者を出した。独立運動はその後もつづき、日本の支配をゆさぶった。	「韓国併合」の部分で具体性を欠くこともあいまって三・一独立運動がどうい文脈で起こったものなのか、植民地支配の内在的要因が明らかでない。【総論】参照。
	159	【コラム】三・一独立運動	日本の植民地支配に反対する朝鮮の独立運動は、人々の万歳のさけびとともに広まった。 柳寛順は、当時、16歳の女学生だった。1919年4月1日、彼女は、抗議の行進に先頭に立った。 しかし、日本軍にとらわれの身となり、翌年10月12日、牢獄の中でなくなった。	
	159	【写真】ふるさとの並川面村に建てられた柳寛順の銅像		並川面「村」はおかしい。
扶桑社	185	【写真】三・一独立運動		何の説明もなく写真だけでは、何を理解させたいのかが明確でない。
	185	アジアの独立運動	(略) 日本の支配下の朝鮮では、1919年3月1日、旧国王の葬儀に集まった人々らがソウルで独立を宣言し、「独立万歳」を叫んでデモ行進を行った。この動きはたちまち朝鮮全土に広まった(三・一独立運動)。このとき、朝鮮総督府は武力でこれを弾圧したが、その後は武力でおさえつける統治のしかたを変更した。	三・一独立運動の契機がベルサイユ体制下の「民族自決の気運の高まり」に一元化されてしまっており、植民地支配の内在的要因がまったく示されていない。【総論】参照。 「統治のしかたを変更した」の内容が具体性を欠く。支配が緩和したかのようにもとれる記述である。